中国支社 HIROSHIMA
〒732-0821
広島市南区大須賀町14番12号 第一ビル
TEL（082）263−5523　FAX（082）568−2927

西日本ネットワーク
中国・四国・九州・沖縄
JAPAN METAL BULLETIN Local Network

福岡支局 FUKUOKA
〒812-0011
福岡市博多区博多駅前3丁目23番22号 シティ22ビル
TEL（092）472−3887　FAX（092）472−3888

不動鋼板
紅忠サミット・山口に納入
結露予測警報器 全工場で環境防錆

九州地区有力コイルセンターの不動鋼板工業（本社＝北九州市、高橋利明社長）は昨年12月に紅忠サミットコイルセンター（本社＝広島県東広島市、田中敬也社長）山口工場に結露予測警報器「露助（つゆすけ）」を納入した。紅忠サミットコイルセンターでは西条工場、呉工場でも露助をすでに導入済み。全工場で環境防錆の体制を構築した。

紅忠サミットコイルセンターは中国地区の中軸コイルセンター。同地区の薄板サプライチェーンの一翼を担い、ユーザーからの信頼も厚い。ベースには徹底した鋼材の品質管理が行われているためだが、近年の気候変動の影響によって冬場に気温が大きく変動して、結露しやすい環境になってきたため、さらなる品質管理の厳格化を行い品質面での差別化を図るため、露助を活用している。

今回、山口工場に露助を導入したことで、全工場で露助を設置、稼働した。さらには西条工場には不動鋼板工業とメタリックスジャパン（福岡市、高橋利明社長）のMJジェットファンを6台導入しており、結露さび対策は万全の体制を構築している。

不動鋼板工業の露助は、鋼材など被対象物の温度と天気露点の変化から、1時間先の結露の危険度を予測し警報する。結露の危険がなければグリーンランプが点灯。結露注意だとイエローランプ、結露警報だとレッドランプが光り、状態を知らせる。

露助は1号と、USBメモリー機能などを追加した「ALPHA（アルファ）」の2機種を用意する。1号はサイズが縦20×横25×高さ20㌢㍍で価格は36万円。アルファはサイズが縦18×横30×高さ20㌢㍍で価格は47万円。両機種ともユーザーが保有する除湿機や送風機と連動させて使用可能で、連動した除湿機、送風機を自動運転させることもできるため、夜間や休日の無人状態でも結露さび対策が可能。

不動鋼板工業はMJジェットファンを販売するほか、今年からはそのパワーアップ商品である「MJパワーファン」を発売している。

露助をはじめとする防錆商品は同社サイト「錆相談室」で紹介され、動画の閲覧も可能。問い合わせは防錆事業室（☎0093−861−0825）まで。

露助1号㊧と露助ALPHA

サンポール
車止め、カプセルトイに
「ピコリーノ」幅広くPR

旗ボール・車止めのトップメーカー、サンポール（本社＝広島市、山根以久子社長）は、ロングセラー製品の小鳥が乗った車止め「ピコリーノ」がカプセルトイとして発売された。愛らしいデザインが好評で同社の広告塔にもなっているピコリーノをカプセルトイにすることで、車止めの役割や必要性を子どもから大人まで幅広くPRしたい考えだ。

カプセルトイは1月27日から全国で順次販売されており、商業施設などにあるカプセルトイマシンで購入できる。デザインはアーチ型の車止めに小鳥、カエル、リス、カワセミが乗っている全6種で、価格は300円。

ピコリーノは、1981年に発売した同社初となる車止め製品。ステンレス製のアーチ型車止めの上部に、アルミ製の小鳥を取り付けた。同社が大切にする「夢と機能の融合」を実現したデザインで、これまでに4万1000基を販売した。

カプセルトイの「車止めリングコレクション」㊧と江ノ島電鉄江ノ島駅前に設置されているピコリーノ

島電鉄江ノ島駅前に設置されている、小鳥が衣装を着たピコリーノが有名だ。

車止めは商業施設やマンションの建築外構、公園や歩道など、人と車が行き交う場所で活躍している。車両の進入を防ぐという重要な役割があるが、多くは景観に馴染むように設置されるため、通りすがりの人に注目してもらえることは少ないという。カプセルトイを通じ、車止めの認知度向上を狙う。

サンポールは旗ボールメーカーとして1970年に設立。81年に車止め業界に新規参入した。機能とデザインにこだわった積極的な製品開発を進め、現在は車止め製品が販売比率の80％以上を占める。近年は車両の衝突を受け止める耐衝撃性能を持った車止め「インパクトボラード」の普及に力を入れる。

拓伸会、沖電と連携協定
脱炭素・循環型社会形成へ
PVパネルリサイクル推進
高耐食性架台開発も

解説

拓南製鉄など8社1組合で組織する拓伸会（拓南グループ、古波津昇会長）と沖縄電力（本永浩之社長）は7日、脱炭素社会の実現と循環型社会の形成に向けた連携協定を締結した。今後、大量廃棄が予想される太陽光（PV）パネルや電気自動車（EV）バッテリーのリユース・リサイクルシステムの構築を進めるとともに耐食性などを高めた架台を開発することで太陽光発電の普及を目指す。

脱炭素に関する協定は沖電としては自治体も含めて今回が8回目となるが、循環型社会の形成に関するものは初めて。同社によるとPVパネルは「45万㌧㌔」が導入され、申請分を含めるとそれ以上」（島袋清人副社長）とし、固定価格買取（FIT）制度の期限を控える中、「大量のパネルが廃棄され、大きな社会的課題になる」（本永社長）と危機感を示し、今回の協定で「両者で問題を共有して解決したい」考え。

7日の会見には県内最大のスクラップヤードディーラー、拓南商事の川上哲史社長も出席し、協定の概要を報告。PVパネルの廃棄は30年ごろから増え始め、40年ごろに大量廃棄時代を迎えるとするほか、充填材（封止材）の分離・除去が困難など処理の難しさや処分には県外輸送や委託処理がかかるなど廃棄コストが高い点などを説明した。

PVパネルのリサイクルは九州地方でも一部企業がスタートさせ、昨年には共栄九州（大分県宇佐市、當舎政雄社長）が県内企業と協力して製作した処理ラインを導入。銅線やアルミ枠のほか、ガラスも分別・回収し、リサイクルしている。

パネル処理は分別の大部分を占めるガラスの処理もネック。参入を目指す別の企業でも「回収したガラスを再利用してくれる需要先の確保が先決」と指摘し、ユーザーが求める品質の維持も重要になる。

拓南商事では自動車リサイクルで回収した廃ガラスから琉球グラスを制作。製品ラインアップの拡充や周知を進めるなど、今までのガラス処理のメインだった埋め立てや路盤材以外の活用を推進しており、パネルのガラスでも応用が期待される。

リユースではEVバッテリーについては、まだ使えるものを選別して大量に集め、再エネの調整や防災関係での利用を検討。PVパネルも新規の調達コストが県外よりも高いことからリユースニーズは高いとみており、回収スキームなどの早期構築を目指す。

目先の具体的な取り組みとして沖電のPVと蓄電池を無償で設置し、発電した電気をユーザーに販売するサービス「PV−TPO」を活用して拓伸会各社の工場屋根などに設備の導入を検討するほか、社有車のEV化や再エネ電力供給型EVステーションの設置によるCO₂排出の低減を進める。

また、塩害が著しい沖縄で耐食性など今まで以上に機能を高めた架台の開発を進め、太陽光発電のさらなる普及を目指す。25年以上とされるパネルの寿命に対して架台は既存の高い耐食性を有する塗膜や塗料だけでは対応が難しいことから拓伸会の防錆・加工・建築技術と沖電グループの経験・ノウハウを強みとして沖縄の環境にも耐えられる架台の開発に取り組む。

拓伸会のHグレード鉄骨ファブリケーター、拓南製作所は沖縄県で唯一、溶融亜鉛めっき処理を手掛け、昨年からはリン酸亜鉛処理を開始するなど防錆事業に強みを持つ。架台にも使われる軽量形鋼などの製造も行い、日本製鉄の高耐食性めっき鋼板「スーパーダイマ」も母材のラインアップにそろえる。

さらに高い耐食性を持った鋼板が開発されれば順次導入する考えで「研究している防錆塗装や表面処理などで長寿命化した架台の開発を進めたい」（古波津会長）と語る。

両者とも脱炭素社会の実現と循環型社会の形成には「個社単独の取り組みだけでは難しい」と語り、双方が持つ知識や技術、ノウハウに加えて全国に広がるネットワークも生かして諸課題の解決に取り組む方針。

（田島　佑一）

拓伸会と沖電連携協定。左から島袋副社長、本永社長、古波津会長、川上社長

広がるSDGs ～産学官連携編～
中国経産局、学生とコラボ
地元企業の人材確保後押し

中国経産局の高橋さん（右端）と学生たち

中国経済産業局はこのほど、大学生、地元企業と共にSDGs（持続可能な開発目標）をテーマにした交流プロジェクトを実施した。SDGs達成への取り組みが地域企業にも広がる中、人材確保の観点から企業の活動を後押ししようと、産学官連携プロジェクトを企画した。

安田女子大学（広島市）で心理学を学ぶ学生7人と中国経産局の若手職員6人がプロジェクトに参加。2021年10月中旬から3カ月をかけ、大学での課外活動や地元企業の訪問を通じ、学生のSDGsに対する意識や取組企業のイメージなどを調査した。

同大学の学生を対象にした就職活動で重視する事項についてのアンケートでは、人間関係や職場環境など「働きやすさ」に関連する項目が上位を占める一方、SDGsは下位にとどまった。プロジェクトに参加した学生は「言葉は知っていたが、環境を守る活動といった認識しかなかった」と振り返り、SDGsについての理解を深める中で「自分たちにも無関係でないことを知ることができた。これからの就職活動ではSDGsにも注目したい」と語る。

1月28日、広島市で開かれたSDGsシンポジウムで、プロジェクトを終えた学生たちは、SDGs達成に向けた活動が学生の求める働きやすさにつながると成果を発表。ビジョンの共有や内滑な人間関係の構築、福利厚生の充実などにプラスに作用するものとして、就職活動で重要なファクターになると指摘する。

SDGsはまだまだ学生の企業選びの決め手とはならないが、取り組みは間接的な形で今後の人材確保を左右する要素となりそうだ。プロジェクトリーダーを務めた中国経産局の高橋菜々子さんは、「地域の企業に）学生の感じていることを知ってもらい、SDGsへの取り組みを発信していく、見える化していくことの大切さを感じていただければ」と話す。

企業訪問の様子

太径対応の鉄筋結束ロボ
世界最大級展示会に出展
建ロボテック、米に実機

建設ロボット開発・販売の建ロボテック（本社＝香川県三木町、眞部達也社長）は、1月17−20日に米国ラスベガスコンベンションセンターで開催された世界最大級の建築・建材展「WORLD of CONCRETE 2022」に初出展した。

会場のブースには、海外の橋梁や道路施工で使用されるD16−D32の太い鉄筋径に対応した自動鉄筋結束ロボット「太径鉄筋結束ロモロボ」の実機を展示。デモンストレーションを行ったほか、トモロボの性能・仕様についての問い合わせや相談に対応した。

現地のゼネコンや経営者、現場作業員、メディアなど、3日間で約1000人が訪れた。トモロボの導入や帰国後のウェブ会議を希望する声が多く寄せられ、現地ニュース番組でもトモロボが取り上げられるなど、海外初出展は成功裏に終わった。

眞部社長は「予想以上の反響をいただき、180社を超えるコンタクトルートを築くことができた。帰国2週間となる現在までに、2件の具体的な商談が進むなど、海外展開に対する自信を得られた」と成果を強調する。

建ロボテックの展示ブース

CF目標金額到達
120万円 通学路に車止め

サンポールは、2月1日から始めたクラウドファンディング「通学路に『車止め』を設置して、子どもたちの安全を守りたい！」が、13日付で目標金額の120万円に到達した。引き続き3月末まで募集し、目標を上回った金額については製品のグレードアップや、別現場での設置費用に充てる。

同プロジェクトは、広島県呉市にある小学校の通学路に耐衝撃仕様の車止め8本を設置することで、子どもを交通事故から守る企画。近年、走行車両が歩行者を巻き込む事故が多発していることを受け、企画した。

営業管理部の山根卓也さんは「皆さまからのあたたかいご支援に、心より感謝申し上げます。子どもたちの未来を守るために、今回のような取り組みが全国に広がっていくことを願っております」と喜びを語った。

九州管内造船 竣工量15％増
10月 受注量もプラス

九州運輸局が先月20日に公表した資料によると、2021年10月の管内（九州7県と山口県西部）13社の造船竣工量は37万381総㌧で前年同月比14・9％増となり、3カ月連続のプラス。前年同月は2カ月連続でゼロだった受注量は7万3000総㌧となり、7カ月連続で前年同月を上回った。

受注量は8月まで4カ月連続で10万総㌧超を記録。20年11月に統計方法を変更したため単純に比較はできないが、統計方法を建造許可実績から契約実績に変更した14年1−4月以来の高水準が続く。60万総㌧超となった6月には及ばないが、前年同月の受注ゼロを回避し、回復基調をたどる。

竣工船価は同9・6％減と3カ月ぶりにマイナスに転じ、278億5000万円だった。

三浦工業、最高益に
国内外設投回復で 4−12月

産業用ボイラー大手の三浦工業が9日発表した2022年3月期第3四半期（4−12月期）の連結決算（IFRS）は、売上収益が998億9300万円（前年同期比5・7％増）、税引き前利益は145億900万円（同11・9％増）で増収増益だった。

営業利益は、141億7100万円（同11・0％増）、四半期利益は、103億5100万円（同17・6％増）。税引き前利益を含め、いずれも前四半期に続き過去最高益を更新した。

国内機器販売事業は、前期に好調だった船用機器が新造船建造量の減少に伴い販売が落ち込んだ一方、設備投資需要の回復でボイラー機器などは増えた。海外では、新型コロナウイルス感染症の影響を受け販売減となっていた地域で設備投資需要が増加し、売り上げを伸ばした。ただ中国の経済成長の鈍化、韓国の景気低迷が響き、両国での販売は低調だった。

メンテナンス事業は、国内外とも堅調に推移した。

四国の鉄鋼相場

（2月14日現在、右は来週の見通し。単位：トン、円）

異形棒鋼（SD295、直送）		93,000	↗
平鋼（6×50）		130,000	↗
等辺山形鋼（6×50）		111,000	↗
溝形鋼（6.5×75×150）		109,000	↗
H形鋼（5.5×8×200×100）		110,000	↗
大径角形鋼管・BCR（12×350×350）		170,000	→
角形鋼管（2.3×100×100）	黒	165,000	→
	カラー	175,000	→
軽量C形鋼（2.3×100×50×20）		165,000	→
中板　3.2（4×8）		125,000	→
酸洗鋼板　3.2（4×8）		135,000	→
冷延鋼板　1.6（4×8）		140,000	→
表面処理鋼板1.6（4×8）		152,000	→
厚板　切板		150,000	→
縞鋼板　4.5（4×8）		135,000	→
黒ガス管　50A		185,000	→
一般構造用鋼管48.6×2.3		170,000	→
ステンレス鋼板SUS304 ホットカットシート3−6（18Cr−8Ni）		470,000	↗
鉄スクラップ価格　H2　姫路		55,000	↗
H2　大阪		56,000	↗
東京製鉄岡山・陸　特級（H2）		56,000	↗
高松・陸　特級（H2）		53,000	↗

※鋼材価格は置場渡し価格、鉄スクラップは購入価格
△は値上がり、▼は値下がり　毎週火・金曜日に掲載

省メンテナンス型 次世代耐火被覆材
耐火テクト®
発泡性ポリエーテル樹脂 耐火被覆材
■耐火テクトによる問題解決
耐火被覆材は人命、財産を守る機能材です。耐火テクトは現在、世の中に求められている耐火性能に＋αを満たす耐火被覆材です。
様々なデザイン建築物が増えており耐火被覆に
1. 屋外耐久性　2. デザイン性　3. 工期短縮
といった機能が求められており、それらを解決できる安心な耐火被覆材です。
耐火テクトの施工、その他お問合せ等は当社にご相談ください。※「耐火テクト」は関西ペイント㈱の商品です。
三喜工業株式会社
〒808-0021 北九州市若松区響町1丁目110番2
TEL.093-751-3333
E-mail：sanki@sankiindustry.co.jp
FAX.093-751-3366
http://sankiindustry.co.jp/